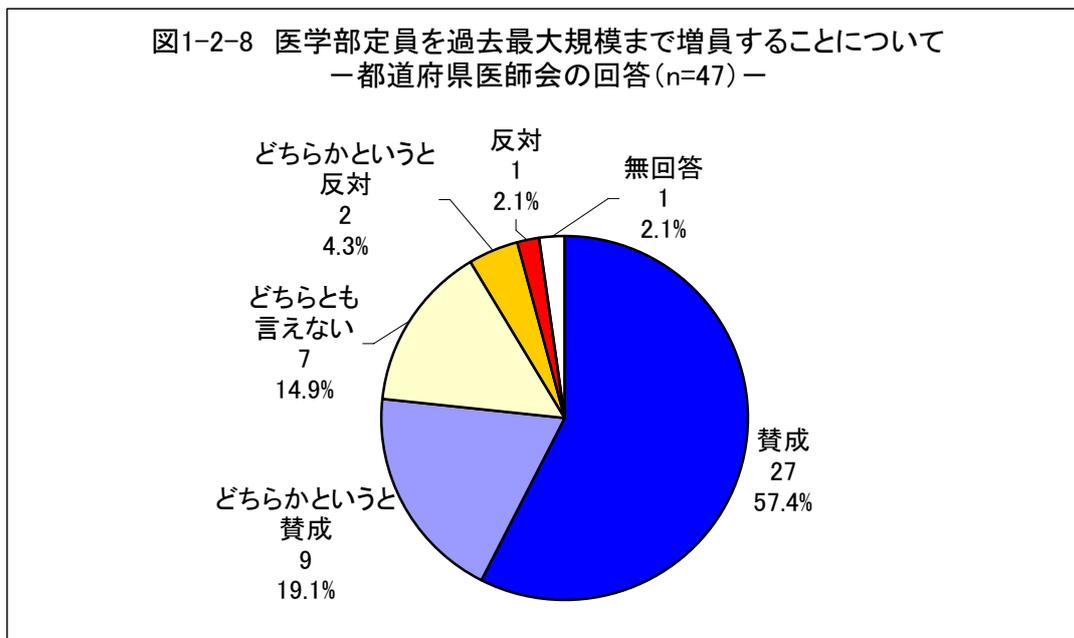


4) 医師養成数を過去最大規模まで増員することに対する都道府県医師会の考え

医学部定員を過去最大規模まで増員することについて、日本医師会が2008年10月に47都道府県医師会にアンケートを行ったところ¹⁷、「賛成」27、「どちらかという」と賛成」9であり、合計36（76.6%）が賛成意見であった（図1-2-8）。

ただし賛成意見の中にも、医師数増加に対応するための医療費財源の確保、診療科・地域の偏在の解消、女性医師の離職の問題の解決などを求める声があった。

どちらとも言えない、反対という意見の中には、偏在の解消につながらない、医学教育の充実が図れない、将来の医師過剰の懸念がある、ビジョンなき定員増になっている危険性がある、医師不足の検証が不十分である、などの指摘があった。



以上のデータや考え方を踏まえ、日本医師会は現時点で、医師数を中長期的に現状の1.1倍～1.2倍にすることが妥当と考える。仮に医師養成数を現状の1.1倍にした場合、医師数が1.1倍になるのは約10年後、1.2倍になるのは約20年後である（図1-2-9）。

2009年度には、医学部養成定員が過去最大規模を超えて増員された（2009年度は

¹⁷ 日医総研「医師確保のための実態調査」日医総研ワーキングペーパーNo.178,2008年12月。本アンケートは前述したように病院のほか、都道府県医師会にも行っており（調査項目は異なる）、都道府県医師会の回答数は47。 <http://www.jmari.med.or.jp/research/dl.php?no=388>